

進学を考える皆様へ

受験に際し、指導教員との面談、出願書類への署名および捺印が必要です。募集要項を取り寄せたのち、担当教員までご連絡下さい。

また、遺伝看護・遺伝カウンセリングコースでは、平日昼間にしか開講できないもの講義、実習があるため、社会人入学(夜間開講)での学習は勤務調整が非常に難しいと思われれます。

また、入学資格は看護師資格を有する者に限定しています。クライアントの療養生活や治療の基礎的知識を獲得していると考えられる2年以上の臨床経験がある方が望ましいとしています。

入試に関する情報は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻ホームページ
<http://www.am.nagasaki-u.ac.jp/gs/> をご覧ください。

教育の特徴

遺伝学的検査の受検や関連する治療のみならず、クライアントの生活に着目したケアの提供ができるよう、社会的な活動への参加にも力を入れています。また、遺伝学の知識を対象に合わせてわかりやすく伝える「遺伝教育プロジェクト」への参画も本コースの特長です。詳細は、「教育・研究」のページをご覧ください。

その他、保健学専攻内の共通科目の履修が可能です。必修の習得単位には含まれていませんが、修士論文作成に必要な研究手法等は履修することを推奨しています。また、他専攻・他分野の大学院生との共修により、お互いの専門性を高めるための学習環境が整っています。

これまでの修士論文テーマ

修了年度	氏名	テーマ
令和2年度	佐藤 信二	がんゲノム医療・遺伝看護に関する看護職の関心・認識の実態調査
令和元年度	高尾 真未	ダウン症者の認知評価尺度(日本語版 CS-DS)の信頼性と妥当性の検証
平成29年度	永井 真理子	遺伝学的検査を受けた児の結果開示に至るプロセスでの母親の経験
平成28年度	渡名喜海香子	NIPT 受検プロセスにおける夫婦の経験と思い
平成28年度	永野 明子	地域の遺伝に関する認識調査

在学生・修了生からのメッセージ

<2020年3月修了生>

看護師として臨床経験を積んでいく中で、生まれつき障害や病気をもつ方にどういう風に関わることが出来るか、また患者さんの家族にどういった支援ができるかということを考えることが何度もありました。そんなときに認定遺伝カウンセラーという仕事を知り、私が考える関わりが出来ると思って進学しました。

講義では遺伝子や遺伝性疾患、倫理についての詳しい知識や遺伝子変化の解釈について学びます。また、演習では実際にカウンセリングに同席し、クライアントとカウンセラーがどのようにカウンセリングを行っているかということをお学びます。月に一度、病院で行われるミーティングに参加させていただき、臨床で患者さんに接している医師や実際に遺伝子解析を行っている先生など、多職種で話し合い患者さんにあった今後の方針などを決める過程をお学ぶことが出来ます。より、実践に近い場で学ぶことが出来ます。

○受験を考えるみなさんへ

私は入学するまで「遺伝子」や「カウンセリング」など、臨床で看護師として接することはあまりありませんでした。しかし、ゲノム医療や遺伝性腫瘍がメディアでも取り上げられることが増えてきました。入学して学ぶことがたくさんあり、今まで知らなかったことを沢山知ることができ、とても楽しい日々です。興味がある人は一緒に勉強してみませんか？

<2017年3月修了生>

助産師として働いていたときに、染色体異常の可能性のある赤ちゃんが生まれました。そのご家族をどのように支援していけば良いのか悩み、また、自分の遺伝に関する知識不足を痛感しました。大学時代の教員に遺伝看護・遺伝カウンセリングコースを紹介してもらい、進学することを決めました。

○認定遺伝カウンセラー®としてのやりがい

現在は長崎大学病院遺伝カウンセリング部門で認定遺伝カウンセラーとして働いています。助産師としての経験からこの分野に興味をもちましたが、現在は染色体異常だけでなく、遺伝性腫瘍、遺伝性神経筋疾患など様々な遺伝性疾患に関わっています。「遺伝カウンセリング」や「認定遺伝カウンセラー」、「遺伝看護」と聞いても具体的な内容や実際の働き方の想像がつかない方もいるかと思うので、少しだけご紹介したいと思います。

妊娠中に赤ちゃんの染色体異常の診断がついた妊婦さんが相談に来ることがあります。遺伝カウンセリングでは妊婦さんやそのご家族の不安や悩みを聞きながら、診断がついた疾患に関する情報の提供を行います。その後も妊婦検診の際に声をかけたり、家族会を紹介したり、同じ疾患のある方を診療している先生方との面談を設けたり、出産後の不安や心配に対する対応方法や解決方法を一緒に考えます。出産後は病棟に会いに行き、小児科を定期受診するときには外来でお母さんのお話を聞いたり、赤ちゃんの成長を喜んだりしています。

このように遺伝性疾患は複数科が継続して定期的に関わる事が多いです。クライアントやその家族に対して、どのような支援が出来るのかを考え、模索する日々ですが、「横断的な関わり」をしながら、「継続的な関わり」が出来る事がとても嬉しく、やりがいを感じています。

○受験を考えるみなさんへ

遺伝の分野はとても幅広く奥深いと思います。難しいと感じることも多いですが、私たちにとってとても身近なことだと感じることも多いです。このコースでは座学だけでなく、患者会へ参加したり、保育園児に遺伝教育をしたり、高校生と一緒に出生前検査について考えてみたりとフィールドワークもたくさんあります。様々なことを学びながらたくさんの事を感じる事ができ、とても有意義な2年間を送ることが出来ると思います。一緒に学び働けることをとても楽しみにしています。